



寺西誠二野々市市長（左）と関浩二東浦町市長（右）。

商工会間のつながりを強める

野々市市商工会と東浦町商工会が協定を締結

市商工会館で「野々市市商工会と東浦町商工会との災害時における相互応援のための地域交流に関する協定」の締結式が11月25日(月)に行われました。この協定は、地震や豪雨など日本全域で自然災害が頻発する中で、被災地域の商工会が実施する支援活動の相互応援を円滑に行うため、商工会同士の平時からの交流を目的に締結されました。平成22年から交流がある野々市市と東浦町。今回の協定締結で、その結び付きがより強固なものとなったようでした。

音楽との新たな出会い

Jr. サンシャインバンド楽器体験&練習見学会

平成20年に発足したジャズバンド「Jr. サンシャインバンド」には、市内外の小学5年生～高校3年生が所属しています。指導は市内のジャズ愛好家が務めており、日々の練習が世代間交流の場ともなっています。そんなJr. サンシャインバンドはメンバーを大募集中。12月1日(日)には楽器体験&練習見学会を開催し、10人が参加しました。トランペットやドラムなどのさまざまな楽器を体験する参加者らは「音が出た!」「別の楽器もやる」と話し、楽器の魅力を満喫していました。



練習は月3回、日曜日の17時～19時。気になったらまずは連絡!



安静室（左上）、保育室でゆったり保育。

一時預かり施設がオープン

病児・病後児センターあわだ

12月2日(月)、病児・病後児センターあわだ（あわだ総合福祉センター内）で病児の一時預かりが始まりました。対象は、県内在住の生後6か月～小学6年生までの子どもです。保護者の就労などにより、体調を崩した子どもの保育が家庭で困難な場合に利用できます。また、1月6日(月)から病後児の一時預かりも始まります。対象は、市内在住の生後6か月～小学6年生までの子どもです。右上の二次元コードからホームページが見られますので、確認してください。



人とふれあい、文学とふれあう

冬の富公祭「富奥文学講座」

令和6年に生誕140年・没後90年を迎えた竹久夢二の中編小説『秘葉紫雪』の朗読が、12月7日(土)に富奥防災コミュニティセンターで行われました。『秘葉紫雪』は、大正13年に新聞連載小説として掲載された作品で、雪の降る金沢が舞台の謎に満ちた物語です。

朗読が始まると会場の雰囲気が一変。臨場感溢れる高輪真知子氏の語り口に、物語の世界へと引きこまれます。70人余りの来場者は、1時間半におよぶ朗読に聞き入り、竹久夢二の世界観を満喫していました。



朗読は、朗読小屋浅野川倶楽部主宰の高輪氏。

まちの話題 Focus

皆さんの周りの楽しい話題やイベントなどの情報を教えてください。
市民協働課 ☎ 227-6056

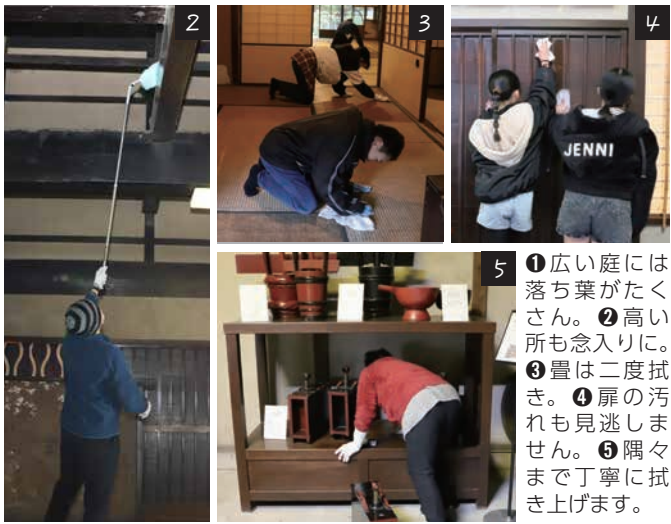
重要文化財をみんなできれいに!

喜多家おそうじ作戦 年末大掃除編

ののいち里まち倶楽部と市観光物産協会では、国の重要文化財である喜多家住宅を市民の手で掃除するイベントを定期的に開催しています。地域の貴重な文化財を掃除することにより、その魅力の再発見を目的として行われています。

19回目となる今回は、時折あられが降る寒い中、12月8日(日)に開催されました。約40人の参加者が庭の落ち葉拾いや室内の拭き掃除を行い、約1時間半かけてぴかぴかにしました。参加者からは「楽しく掃除することができた。歴史的な建物に触れるいい機会になった」「建物を保存するためには定期的に掃除をすることが大事だと思った」などの声が聞かれました。

掃除が終わった後は、ののいち里まち倶楽部による喜多家住宅のガイドも行われました。



① 広い庭には落ち葉がたくさん。② 高い所も念入りに。③ 畳は二度拭き。④ 扉の汚れも見逃しません。⑤ 隅々まで丁寧に拭き上げます。



市役所のコーナーは、11月1日(金)から29日(金)まで設置されました。

虐待、暴力のない社会に

パープル・オレンジリボンキャンペーン

11月は、配偶者などからの暴力(DV)や性暴力の防止と児童虐待防止を推進する月間です。これに合わせて市では、パープルリボン(DV、性暴力防止)・オレンジリボン(児童虐待防止)キャンペーンを行いました。市役所正面玄関付近に、パープルやオレンジに彩られたコーナーが設置され、2本のツリーも登場。ツリーの1つ(写真左)は、訪れた人がDV防止の思いを書いたカードで飾られました。この他、学びの杜ののいちカレードやにぎわいの里ののいちカミーノにも特別コーナーが設置されました。

市内や近郊での創業を考えている人へ

創業セミナー

11月16日(土)、学びの杜ののいちカレードで通算8回目となる創業セミナーが開催されました。第1部は、「おさかなゆきちゃん」代表の公文ゆき氏(起業2年目)と、「ひらみゆき農園」代表の平美由記氏(起業3年目)が登場し、自身が創業した際の体験談やアドバイスを話しました。第2部は、先輩創業者と参加者が同じテーブルを囲んでワークショップを実施。約20人の参加者は、先輩創業者へ質問したり参加者同士で交流したりと、セミナーの場を積極的に活用していました。



「店舗を持つことがゴールではなくスタート」と話す公文氏。